

# JOA 主催大会はどこへ行く？

春爛漫の加賀路で、JOA に関するセミナーが開催された。

現在 JOA の主催大会がブロック制で北信越地区にも数年に一度回ってくる。この JOA 主催大会とどのように付き合えばゆけば良いかが今回のテーマである。

金沢大学オリエンテリング大会の前日ということもあって、約 25 名が参加し、熱の入った討議が行われた。  
(2002 年 4 月 6 日)

## 東日本大会 2001 の体験談

林

福井県協会は 2001 年度東日本大会を主管しました。その実体験を報告します。

インカレショート・地元とのタイアップにより成功に導くことができました。近年まれにみる好天に恵まれたことは幸運でした。おかげで 8 年前の前の東日本大会の参加者実績を 50 名上回ることができました。(事前参加者申込 685 名)

運営メンバーの不足は最も深刻な問題でした。東日本大会を開催するにはまずメンバー集めから始まり、メンバーの教育、意識を高めることまでの作業が大変でした。少ないメンバーで運営するための一例として、スタートを一箇所で行ないました。スタートフラッグを N クラスと他のクラスと分けるなど頭を悩ませましたが実現させました。そんな中、E クラス、B クラス、N クラスはスタート間隔を空け、競技の楽しみを味わっていただけのように配慮しました。

スタートリストは JOA 事務局から送られてくるのですが、福井県協会側でかなり手を入れさせていた

だきました。このやりとりが結構大変でした。JOA 事務局は東京にあり、現場を知らない状態、交通機関との接続を全く知らない状態でスタート時間を決めてきたのでこれを修正するのが大変でした。

(林博：福井県 OL 協会)



東日本大会の報告をする 林さん

## 学生は公認大会離れ

山口

私の持っている資料を調べてみました。

参加人数は 670 名程度と同程度の平成 7 年度の東日本大会(富山)と平成 13 年度の東日本大会(福井)との比較をしてみました。

24 歳以下の参加者が平成 7 年の富山での東日本大会では全体の 40%。平成 13 年度の福井での東日本大会では約 30%となっており、3 割程度減っています。

平成 13 年度の東日本大会は、隣の町で前日にインカレショート大会が開催され、多数の学生オリエンティアが参加されていたにもかかわらず、若い人の参加が減少しているのです。24 歳以下の参加者が減少してしまった原因を明らかにした

いところ。公認大会は参加費が高いからなのでしょうか？

新潟大学

2001 年の新潟大学の場合は、前日に行われたインカレショートで疲れて帰ってしまって、東日本大会に参加しなかった人がかなりいました。自分は東日本大会に参加したので、参加しなかった人の理由はよく判りませんが、単純に参加費の問題ではないと思います。

木村

参加者から JOA 公認大会を遠ざけている原因として、そのエントリの難しさにあると思います。自分で公認大会にエントリしようとしても、エントリフォームを書くときに登録番号が思い出せません。このちょっとしたエントリの時の障害だけで、エントリを諦めてしまう人が多いと思いますよ。競技団体だから登録制度があるのは当たり前なのですが、これが参加者を公認大会から遠ざけている原因の一つとなっています。

JOA 公認大会は何を目指すのでしょうか？全日本大会への予選会を目指しているのでしょうか？地域への普及活動を目指しているのでしょうか？このコンセプトをある程度明確にすることで、JOA の東西大会に登録制度を適用するかどうかの判断をする必要があるのだと思います。

また要綱が手に入らなかつたりするのも、参加する意欲が湧かない理由のひとつになっています。

林

福井県 OL 協会では、2001 年の東日本大会の運営に参加した福井大学の学生を、先日京都で行われた全日本大会に無料バスを出して連れていこうと企画しました。福井県協会では大会参加費までは面倒見られないため、全日本大会の参加料は自己負担にしました。すると全日本

大会参加費のあまりの高さに学生は驚き、春休み中ということもあったのか、結局申し込んだ人はゼロでした。

オリエンテーリングの価値を高く評価している人は参加費が高くても参加してくれますが、最初から高い価値で見てくれるわけではありません。その段階の人たちから見れば、今の公認大会の料金設定は高すぎると思います。

また、福井での東日本大会での例を言うと、参加しようとした初心者の方に参加量¥2,000 をお願いしたら、金額の高さに驚かれて結局トリムの部に参加されたということがありました。

### 羽鳥

学生が公認大会に出ない理由のひとつとして、「同じ世代で競い合う場」が設定されていないことにあります。実は昔の公認大会は学生同士が競い合っていました。それは学生主催の大会や練習会では、必ず誰かが運営に回ってしまうため、学生が一同に会して競い合う場として、実は公認大会は重要だったのです。

しかし、近年はインカレが春と秋に開催され、学生同士が競い合う場が増えています。また地域クラブ大会においても学生のセレクションクラスを設けるなどして、学生同士が競い合う場が増えました。

いっぽう公認大会では M19 や M21 といったクラス別けになっているため 19 歳から 22 歳が横断的に出場できるクラスがありません。学生が 2 つのクラスに分断されてしまうのです。それでも昔はこうした中で学生は競っていましたが、今はもっと環境の良い「学生はひとつのクラス別け」の中で走ることができるようになってきました。つまり公認大会は相対的に学生の競い合う場としての魅力が無くなっており、参加する意欲が失われています。こうしたクラス別けはとても重要です。

事実、地域クラブの大会でも学生セレクションクラスを設けると多数参加してくれます。

### \*\*さん

クラス分けについて言うと、この高齢化社会を反映して、M70A クラスを作って欲しいという意見もあ

ります。

### 羽鳥

学生だけじゃなく、学生から社会人になったオリエンテーリング愛好者にも、学生と同じことが言えます。現役の学生と同じトレーニングはもはやできないにもかかわらず、学生と同じクラスで戦うクラス分けになっている。そこは under23 (学生) under28 のようなクラス設定をして欲しいと思っている学生 0B も多くいると思います。

### 森田

こうした方のために M21AS が設けられているのですが、やはり年齢で区切ったほうが良いのでしょうか？

## 地元に残すのか

### 山口

実際に富山で運営する側からすると、ブロックローテーションで回ってきた JOA 主催の東日本大会を行うに当たって、何かの特徴を出してゆきたいと思います。たとえばトレインの性質に合わせたパーク 0 だとか、ショート 0 にするとかいろいろアイデアはあるのです。しかし東日本大会は全日本大会の予選会となっているという事が足かせになって、今一つ踏みきれないでいます。これが主管者の開催意欲を削いでいます。その構造を見直さない限り公認大会を地方で行うにあたってのモチベーションは改善されないと思います。

### 森田

現在 JOA 主催大会は全国ブロックに分けてそのブロックローテーションで開催を持ちまわっています。ブロックローテーションを開始した当初は、普及という意味が大きかったはずですが、また負担を均等に分散されるといった意味もあったと思いますが・・・

### 山口

実際、東日本大会の開催が富山に回ってくると、マンパワーが大会の準備に割かれてしまっています。このため、東日本大会を開催する年は

富山で毎年行っている初心者イベントや普及イベントを開催できません。普及面では明らかにマイナスになっています。

### 森田

全日本大会の予選という意味合いもありますが、それも見直したいですね。回して普及という時代は終わったような気がします。

### 羽鳥

埼玉で行われた JOA 公認横瀬大会では当初参加者 1000 人を想定して予算を組んでいました。しかし実際には参加者は集まらず、非常に手痛い目にあいました。最後はあらゆる手を尽くしてなんとか参加者を 600 名集めました。急遽緊縮予算を組んだが 50 万円の赤字となってしまったのです。

以前は JOA 公認大会というだけで参加者が集まった時代もありました。しかし、現在は逆です。JOA 公認大会は敬遠されている。もう JOA 公認大会を積極的に誘致する時代では無くなっています。

### 山口

事実、次に富山に回ってくる東日本大会では主管の富山県 OL 協会が使える金額を考えると ¥100 万程度しかありません。富山県 OL 協会では ¥100 万でできることを考えてしまいます。富山でクラシカルコースを多数提供することは、実は地元にはメリットが何もありません。普及にもつながらないしお金もかかりません。ショート 0 やパーク 0 の方が、地図作成費用は少なく済むし、今後の普及イベントに利用できるのです。こうした東日本大会を行うと関東からの参加者は激減するでしょうが、地元ではそちらのほうがハッピーなのです。

### 木村

例えば長野の菅平高原で東日本大会を開催したとしましょう。菅平高原はリゾート地で、こうしたスポーツイベントの受け入れは比較的容易な環境にあります。しかし高原ですので、都市部から気軽に電車に乗って会場まででかけるという場所ではありません。こうした場所は競技には最適なのですが、ファミリ

ーなどの初心者系グループ参加者を集めるというのは至難のワザです。

しかしながら、JOAの公認大会はトリムクラス(グループ)の設置を義務づけているのですが、トリムのために個人クラスと違った運営体系が求められてしまいます。運営人材の確保が難しいなか、ますますJOA公認大会が開催しにくい状況を作り出しています。私の意見としてはトリムの開催の有無まで含めて主管に任せて欲しいと思います。

## 楠見

和歌山の西日本大会はうまく行った例ですが、これの実例をお話します。このイベントは地元の行政が乗り気でした。このためプレイベントを2回行いました。また西日本大会の後にも町民大会を開催しました。このようにJOA主催大会を中心にこれをうまく地方の活動に利用できると思います。



資料を見ながら議論する参加者

## JOA 主催大会の今後

### 羽鳥

大会をする時に運営の効率化して費用を最小限に抑えることは必要なのですが、もうひとつ、リユースできるテレインを開発することも重要です。逆に言えばリユースできないテレインは開発してはいけません。

例えば、2000年に静岡で行われたワールドカップでは¥600万もの赤字が出ました。しかしその素晴らしいテレインと優れた地図は高い評価を得ました。その後、このテレインは多くの合宿で使用されてい

ます。初年度だけで地図の売上収入は¥130万くらいになると聞いています。

もうひとつ二子山(静岡県)の事例を上げましょう。これは早大OC大会の例でJOA主催事業ではないのですが。

この大会ではプロを使うなどしてほぼ完璧な地図を作成しました。しかしこのテレインは合宿などには開放しません。大会後テレインをクローズすることによって地元交渉が簡単になりました。またテレインをクローズすることによって定期的にこの場所で大会を開催することができるようになり、この大会で地元収入があったり、受け入れ体制を作ることが簡単になります。地図を完璧に作ることによって、次の大会開催の負担は大幅に削減することができます。

テレインをクローズするといっても、地域の総合教育にはもちろんどんどん使ってもらえるようにはします。地元の人がテレインを利用することは、地権者も比較的寛容ですからね。

### 森田

テレインを何箇所かリザーブしておいてJOAの主催大会を回すようにしてはどうでしょうか？この時にクローズ期間はどのくらい必要なのでしょうか？

### 羽鳥

一応、現役エリートでもある私の意見としては、「テレインを覚えてしまう」という事より重要なのは、「いい地図がどうか」なんですよ。「いいテレインかどうか」は関係ありません。クローズ期間は1年あれば充分ではないでしょうか。

## JOA 事務局の役割

### 木村

JOAの仕事はもっとアウトソーシングされてよいのではないのでしょうか。たとえば、スタートリストの作成などは現場の開催県で行ったほうがより効率的だと思います。

それよりJOA事務局はもっと対外的なこと、例えば外国語による要

項の発行だとか、外国人参加者に対するインビテーションの発行、それに伴う外務省との折衝などを行ってもらえればと思います。また文科省とのやりとりも社団であるJOAでないとできませんので、そういった方面に注力していただくのが良いのではないかと思います。

また開催県との分担の問題もあるでしょうがプログラム作成を任せても良いケースもあると思います。

## アクション!

### 山口

皆様いろいろとご討議、ご意見ありがとうございました。この意見を基に5月に行われる北信越オリエンテーリングクラブ連絡協議会にて討議し、北信越地区にある県のオリエンテーリング県協会を通じてJOA(日本オリエンテーリング協会)に意見を提出したいと思います。

ブロックローテーションでまわってくるJOA主催大会は我々にとって避けては通れない問題ですから、我々の手で改善してゆきたいと思います。

-----  
上記討議の内容は、会場でメモをとっていた木村がメモを元に再現したのですが、誌面の都合上、あるいは表現上、多少の誇張や表現の違いがあります。

会場となったセミナーハウス「あいらす」の周囲は加賀中央公園という地域で小高い丘の中に各種スポーツ施設があります。セミナーハウスの前の芝生広場は桜が満開の時期を迎えており、多くの花見客で賑わっていました。

翌日には、セミナーハウスより近い加賀海岸のテレインにおいて、金沢大学大会が開催され、セミナー参加者の多くは、加賀の松林で爽やかなオリエンテーリングを楽しんでいました。

(報告おわり)